

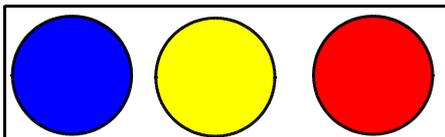
# 「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝



## 「夏休みチャレンジ問題」 解答編

Q1：信号に色を塗ってください。



日本では赤が見やすいように、左から青・黄・赤と順番が決まっている。自閉スペクトラム症の子どもは視覚優位が多く、黄色からではなく3色を順番に塗ることができる。

Q4：左足をケガしました。一本しか松葉杖がないとしたら、どちらに持ちますか。



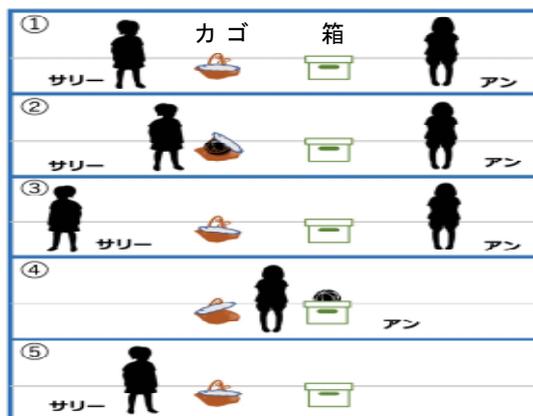
( 左側  右側 )

右側に松葉杖をした方が、痛めている左足への負担が減り、バランスよく歩行できる。

支援とは、できるところ、強いところ、動くところを支え、自信をもたせて少しずつ減らしていく。支援はするよりも減らすことが大切である。不要な支援をしていないか、支援を減らす工夫をしているか考える。最小の支線で最大の成果を上げる。

Q2：ボールはどこにありますか？  
(カゴの中  箱の中 )

Q3：ボールで遊びたいサリーはどこを探しますか？ (  カゴの中  箱の中 )



サリーの心の中を理解していると、Q3は「カゴの中」を探すと答えられる。このように他者の気持ちを推し量る能力を「心の理論」と呼ぶ。自閉スペクトラム症の子どもは「心の理論」の発達が遅く、他者理解が弱い傾向にある。また、場の状況や暗黙のルールの理解にも困難さがある。これくらいは分かっていると思わず、得意の視覚優位を活用して、見えないものを見えるように伝える支援が有効である。



Q5：子どもがつまずいて転倒しました。痛くて泣いています。最初どのような言葉を掛けますか？

- × 「大丈夫！痛くない！泣かない！」
- × 「急ぐからでしょ、ちゃんと前を向いて歩きさない」
- 「痛かったですよ」

「大丈夫？」と心配したり、転倒した原因や対処を伝えたりする前に、子どもに寄り添った言葉を掛ける。共感する言葉掛けは、子どもの不安を和らげるとともに、良好な信頼関係を築くこともできる。



Q6：車いすを利用している人が階段を登ることができずに困っています。どのような言葉を掛けますか？

- × 「お手伝いすることはありませんか」
- 「お手伝いしましょうか」

「ありませんか」と否定形で言われると、依頼しづらくなる。もし断られても相手に優しさは伝わる。

子どもは「～してはいけない、ダメ」と言われると、どうしたらよいか混乱するので、してほしい行動(期待)を具体的に肯定的に伝える。

Q7：りんごが3個ありました。4人の子  
どもに、どのように分けますか？

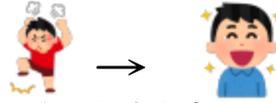


1個のりんごを4等分し、12個にして  
から1人に3個ずつ分けるやり方が一般  
的である。しかし、4人の中には、りん  
ごが嫌いな子ども、お腹がいっぱいな子  
どもがいるかもしれない。一番よい方法  
は子どもに聞くことではないか。

相手がしてほしいことを相手にするこ  
と（プラチナの法則）が大事である。

Q8：子どもの見方を変えよう（視点の転換）

- ①困った子ども →（困っている子ども）
- ②子どもを変える→（環境を変える）
- ③やる気がない子→（やり方が分からない子）
- ④なぜできないの→（何に困っているのか）
- ⑤～しかできない子→（～あればできる子）



「子どもの見方を変えて、  
子どもの味方になろう」

Q9：愛着障害に関する問題です。○か×で答えてください。

- ①虐待で一番多いのは、身体的虐待である（×）心理的虐待（暴言、無視、DV等）  
※身体的虐待・性的虐待・ネグレクト・心理的虐待
- ②愛着障害はどこの家庭でも誰にでも起こり得る（○）通常で増加している
- ③愛着障害は脳の機能障害である（×）後天的な感情・関係性の障害
- ④愛着形成はいつでも取り戻せる（○）愛着は生涯発達する
- ⑤愛着障害は親にしか形成・修復は無理である（×）親以外の信頼できる養育者でOK！
- ⑥子どもの要求は全て受容する（×）エスカレートしてしまう  
「子どもを愛さない親はいない。しかし、子どもの愛し方を知らない親は少なくない」



Q10：子どもから「昼休みに体育館でバドミントンできる？」と聞かれました。しかし、  
今日は体育館を利用することができません。どのように対応しますか。

×「できない」と否定する。「分からない」とはぐらかす。

○「集会の準備でできないけど、明日はできるよ」と逸らし、「昼休みは外でキャッチボ  
ールをしよう」と別の行動に誘って逸らす。ネガティブな感情を切り離すためには、  
ポジティブな感情を感じる次の行動の指示を出して逸らすことがポイントである。や  
るべき行動を二つ提案し、子どもが自己選択することも有効である。

Q11：学級の子どもから、「どうしてAさんだけ大きな問題用紙を使っているのですか？」  
と質問されたら、どのように説明しますか？

誰にでも苦手・不得手があっても当然。だから困ることがあっても当然。一人一人の顔が  
違うように困ることも違って当然。困り方が違えば支援の仕方も違う。もし困ったら助け  
て！と言える学級にしよう。言えることは癒えること。そんなメッセージを繰り返し発  
信する。困っていいんだという雰囲気が学級に浸透すると、特別な支援は当たり前になる。  
当たり前はみんなで作るもの。「みんなちがって、みんないい」を実現する。

Q12：担任の対応は差別か？ 合理的配慮か？ 心臓病のAさん（中3）が修学旅行に行  
きました。他の生徒は、お寺の長くて急な斜面を登って参拝しました。しかし、A  
さんはバスの中で30分待機し、学級担任がタブレットでこのお寺の紹介用ビデオ  
を見せました。Aさんはお寺の参拝を楽しみにしていました・・・。

本人及び保護者が納得していなければ、差別に当たる可能性がある。そこで、

- ①保護者を通して、主治医に旅行中の配慮事項、緊急時の対応等の情報収集を行う。
  - ②主治医の意見を基に、本人及び保護者が納得できる計画（代替案含む）を提案する。
  - ③当日の体調を考慮した上で、合意形成を図った内容（合理的配慮）を確認、実施する。
- 合理的配慮は、本人及び保護者を説得するのではなく、納得できるような丁寧な情報  
提供と建設的な対話を行い、合意形成を図ることがポイントとなる。